

# 災害に強いまちづくり

## 移動のしやすいまちづくり

### 第1回



第1回 2011年11月26日(土) 14:00~16:00

「話し合い：災害時の避難について」

- ・西淀川区は水害に弱い地形です。淀川、神崎川の氾濫、地震による津波が発生した場合、大きな災害が起こることが予想されます。
- ・災害時には、高齢者や障害者、幼児と行った移動に困難がある人々が逃げおくれる危険性があります。
- ・災害に強いまちにしていくために、住民一人ひとりがどのような対策をしていくとよいのか、みんなで考えてみましょう。

## ① このプロジェクトの経緯と目的

あおぞら財団では、西淀川地区沿道環境に関する連絡会、西淀川交通まちづくり意見交換会・討論会などに関わり、西淀川区内の交通・移動環境に対する様々な提言を行ってきました。昨年度は、市民の方と共に、自転車を活かしたまちづくりについて話し合い、提案を行いました。

現在、3月11日に発生した東日本大震災を受けて、災害発生時の避難に対する危機感が強まっています。災害時には、高齢者や障害者、幼児や乳児といった移動に困難がある人々が逃げ遅れ、たくさんの尊い命が失われました。西淀川においては、淀川、神崎川が氾濫したり、津波が発生した場合、大きな災害が起こることが予想されます。

災害に強いまちにしていくためには、堤防の整備などのハード面も必要ですが、住民一人ひとりが万が一の災害に備えて対策を考えることが必要です。本年度の西淀川交通まちづくりプロジェクトでは、西淀川で災害が起きた場合を想定した避難について、みんなで考えていきたいと思っています。

また、同時並行で、日常に誰もが移動しやすい環境づくりを目指して、交通バリアフリーに関する情報収集も行っていきたいと思っています。災害に強いまちづくりは、平常時の移動のしやすさにつながっていると考えられます。集めた情報は、バリアフリーマップとして、冊子やwebにまとめていきます。

## ② 全体のスケジュール

	11月	12月	1月	2月	3月
話し合い	○1回目 (26日)		○2回目		○意見交換会
ヒアリング調査		○		○	

### ③ プロジェクトの内容

時期	内容
1回目話し合い 11月26日（土） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「話し合い：災害時の避難について」</li> <li>・まず、「西淀川区で予測される災害被害」や「災害に強いまちづくり」に関するお話を聞きます。</li> <li>・その後、高齢者、障害者、乳幼児といった移動が困難な人々を対象とした災害時の避難方法について話し合います。</li> </ul>
ヒアリング調査 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「調査：避難の際に、どのような情報が必要なのか」</li> <li>・1回目の話し合いの内容をふまえて、高齢者、障害者、乳幼児の保護者の方々が、災害時にどのような情報を必要としているのかを聞きます。</li> </ul>
2回目話し合い 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「話し合い：どのように情報をまとめて知らせたらよいのか」</li> <li>・ヒアリング調査の内容をふまえて、どのように情報をまとめて、どのように情報を提供していくべきかを話し合います。</li> </ul>
ヒアリング調査 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「調査：情報提供方法に対する意見」</li> <li>・2回目の話し合いの内容をふまえて、高齢者、障害者、乳幼児の保護者といった方々に、情報提供方法に対する意見を聞きます</li> </ul>
意見交換会 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区役所や学識経験者と意見交換</li> <li>・話し合った内容やヒアリング調査の内容をもとに、行政や学識経験者と意見交換をします。</li> </ul>

### ④ プロジェクトの成果（予定）

#### ●災害に強いまちづくりについて

- ・西淀川防災パンフ（子育て世代版）  
避難の際に必要な情報、避難経路、避難場所など  
部数：3,000～5,000部（参考：西淀川区の出生数 約1,000人／年）

#### ・報告書

本年度の取り組み内容について

#### ●バリアフリーについて

- ・西淀川バリアフリーマップ  
主要施設、買い物施設などのバリアフリー情報

## ⑤ 本日の講師の紹介

### ● 阪本直美さん



- ・ 西淀川区社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター
- ・ 阪本さんは、東日本大震災の災害支援のために、岩沼、気仙沼を訪問されています。
- ・ あおぞら財団で4月22日に行った「月イチ会」においても、被災地支援の経験についてお話しいただきました。

## ⑥ 本日の内容

14:00 (10分)	あいさつ 参加メンバーの自己紹介
14:10 (20分)	大阪市西淀川区の現状の防災対策について (あおぞら財団) 災害に対する西淀区民の声 (あおぞら財団)
14:35 (30分)	災害時の避難について (西淀川区社会福祉協議会 阪本直美さん)
15:00 (5分)	休憩
15:05 (50分)	話し合い ※災害避難に関する各自の思いについて ※高齢者、障害者、乳幼児といった移動が困難な人々を対象とした 災害時の避難方法について ※バリアフリーマップについて
15:55 (5分)	アンケートに記入

# 防災・バリアフリーに関するヒアリング調査

・ 防災およびバリアフリーについて、下記の方々に、ヒアリング調査を行いました。

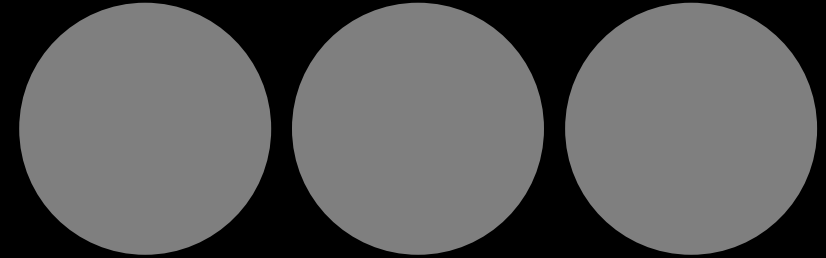
高齢者・障がい者施設、病院の職員	障がい児・乳幼児の保護者
<p>■高齢者・障害者施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護ステーション げんきな郷 代表 村上良一さん 日時：10月21日 午後15:00～17:00</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンターあおぞら苑 施設長 辰巳致さん 日時：2011年10月24日 午後13:30～15:00</li> </ul> 	<p>■障がい児の保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西淀川公害患者と家族の会 職員 日時：10月24日 午後16:00～17:00</li> <li>・西淀川区おもちゃ図書館 おもちゃばこ*1に 来ているお母さん方 11月12日 午後1:30～4:00</li> </ul>  <p>■乳幼児の保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで子育てに～よんステーション*2に 来ているお母さん方 日時：10月31日 午後13:00～15:00</li> </ul> 
<p>■病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西淀病院 事務長 村岡好人さん 日時：11月8日 16:00～16:45</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にしよど冒険遊び場*3にきているお母さん方 日時：11月10日 午後10:00～12:00</li> </ul> 

※1 西淀川区おもちゃ図書館 おもちゃ箱：障害のある子どもたちが楽しくおもちゃで遊べるようにつくられたボランティア活動。月に1回、開催されている。

※2 みんなで子育てに～よんステーション：NPO法人にしよどネットが、西淀川区役所1階にて、子育て親子の自由交流の場を提供している。子ども達が自由に遊べるスペースがあり、常駐するスタッフに子育て相談もできる。開館時間は、月・水・金、9:30～15:30。

※3 にしよど冒険遊び場：NPO法人にしよどネットが西淀川区内の公園を巡回しながら、子ども達が自由に遊べる場づくりをしている。

# 災害に対する西淀川区民の声



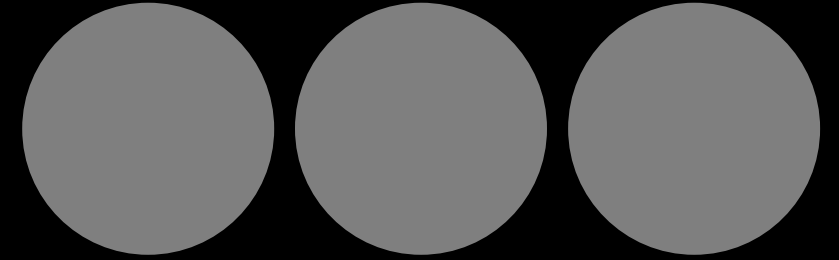
	高齢者・障がい者施設、病院の職員	障がい児・乳幼児の保護者
災害発生時に不安に感じること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会に入っていない人が増えているため、支援を必要としている人が何人いるのか分からない。無年金者などの高齢者が町会費をはらうことが難しくなって退会していく。マンションの居住者もほとんど入っていない。(げんきな郷)</li> <li>・障害者をどうやって防災計画に入れるかが問題。個人情報保護法があるため、障害者の住まいや情報が分からない。(げんきな郷)</li> <li>・津波がいつ来るのかという正確な情報がちゃんとわかるかどうか分からない。(あおぞら苑)</li> <li>・防災無線は、今まで聞いたことがない。(あおぞら苑)</li> <li>・在宅の高齢者は、テレビやラジオなどから情報を得ようとする意欲がない人も多い。(あおぞら苑)</li> <li>・あおぞら苑の2階には、4人が住んでいる。介護度が重く、避難させるのは難しい。(あおぞら苑)</li> <li>・被災した時に、病院としての機能をどこまで維持できるかに問題意識がある。建物は建て替えの際に阪神大震災後にできた基準をクリアするものとした。しかし水害の時には西淀川は大部分が水没してしまうため、身動きが取れなくなるおそれがある。そうなった際、病院が孤立してしまう。浸水した時のために電源系統は(屋)上に設置している。カルテは電子カルテに移行したが、電気がないと使えないことと、カルテのサーバーや検査機器は1階にあるので、その点は現状での問題である。(西淀病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段は車いすで移動しており、意思表示はアイコンタクトのみ。小学校や学童保育に行っている間は、先生におまかせするしかない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・知的障害の子どもは自分の住所も名前もいえない。学校等に行って自分と離れている時に災害があるとどうやって連絡をとればよいのか不安だ。(障がい児の保護者)</li> <li>・痰を吸引する機械は電気がないと動かない。停電が怖い。(重度の障がい児の保護者)</li> <li>・子どもと二人でいる時が多いので、とっさの時に助けることができるか不安。(乳幼児の保護者)</li> <li>・幼稚園や小学校に行っている子どもと連絡がとれるかが分からない。(乳幼児の保護者)</li> <li>・東日本大震災の時には、ちょうど小学校の下校時で子どもがなかなか帰って来なかったため、不安だった。(乳幼児の保護者)</li> <li>・近くに相談できる人がいるといいが、災害時には難しいかもしれない。(乳幼児の保護者)</li> <li>・水害が一番不安。淀川沿いの一戸建てに住んでおり、普段は子どもと2人なので怖い。(乳幼児の保護者)</li> <li>・歌島交差点は、地下道になっているため、水に浸かってしまうのではないかと。(乳幼児の保護者)</li> <li>・地震が起きた時に、建物が歪んでドアや窓が開かなくなると不安。(乳幼児の保護者)</li> <li>・オムツ、ミルクがあるか、水、ガスが使えるのかが心配。(乳幼児の保護者)</li> </ul>
災害に対する備え ■避難方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者の避難は、女性のヘルパーでは無理。男手で、家族のことを気にしなくてもよい独り者で体制をつくらないといけない。女性ヘルパーは家庭の主婦でもあるため、まずは自分の家を守らないといけない。(げんきな郷)</li> <li>・震災や津波が来た時に自分では逃げるできない人がほとんどである。独居の人は、在宅の際には逃げる術がない。(あおぞら苑)</li> <li>・津波が来る際には、高いところに逃げるしかないが、お年寄り一人で高い所にいけない。お年寄りに「逃げる」という意識が薄い。(あおぞら苑)</li> <li>・「津波が2時間後に来る」ということがわかっていたら、施設に来ている人は連れ出すことができる。(あおぞら苑)</li> <li>・施設の職員だけで、子ども達を避難させるのは困難。大規模災害時に、周辺の企業や西淀川中学校などの協力があると心強い。施設と地域を結びつけていくことが大事だと思う。(姫島こども園)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学童保育にいる際は、先生に体重19kgの娘を抱きかかえて逃げてもらわないといけない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・15階建ての11階に住んでいる。震度4でエレベーターが止まった。普段は車いすに子どもを乗せて移動しているが、エレベーターが止まると21kgの子どもを抱えて階段でおりないといけない。本人は肩に手をまわすことができないため、おんぶもできない。緊急時には周囲の人の手助けがほしい。(重度障がい児の保護者)</li> <li>→担架は曲がるのが難しい。シーツなど大きな布のほうが、用意もしやすいし、扱いやすいのではないかと。(社協 阪本さん)</li> <li>・小さい子がいると、非常袋を持ち出すのが困難になるのではないかと不安に思っている。(乳幼児の保護者)</li> </ul>
■避難場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会からマンションの管理組合に申し入れをして、災害時にマンションに受け入れをしてもらう約束をした。マンションに自治会がないため、管理会社に向けあつて交渉した。大手のマンションの管理会社の月報には、防災計画をつくらないといけないと載っていた。(げんきな郷)</li> <li>・福祉避難所は、佃地区にはない。現在、佃にある千船病院は災害拠点病院になっているが、平成27年に福駅周辺に引っ越しするらしい。(げんきな郷)</li> <li>・淀中学校が近くにあり、公的な避難所になっている。しかし、淀中では高齢者が避難しても対応できないため、連れていくことはないと思う。(あおぞら苑)</li> <li>・体調が悪い人は、避難所では対応できない。病院で対応できるのが一番いいと思うが、難しいと思う。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の父母の運営委員会で、佃中学校に逃げることに決めた。佃中学校は学童保育のすぐ裏にある。佃中学校は収用避難所になっていないので、一時的な避難場所になると思う。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・家はマンションなので、津波や浸水などの際には、マンションの上の階に、子どもを抱きかかえて逃げることになると思う。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・知的障害のある子どもは、空気がよめない。夜中に叫んだりして、「うるさい」「だまさせろ」となどと怒られるのではないかと不安がある。障害者が周りに対して申し訳なくて、避難所を出て来たという記事を読んだ。障害者だけの部屋があるとよいのだが。(障がい児の保護者)</li> <li>・口からご飯を食べることができないため、水分や食事はチューブから胃瘻に注入している。牛乳</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波の際には、近くにあるマンションか、200m 先にある府営住宅に連れて行く。車で移動しないといけないが、渋滞するので 200m 以内ぐらいしか移動できない。車で何回かにわけて輸送すると思う。(あおぞら苑)</li> <li>1m ぐらいの浸水であつたら、あおぞら苑の 2 階に上げて対応する。津波以外の災害で、もし、あおぞら苑が建っているのであれば、あおぞら苑で対応する。利用者が一人でも逃げられないという状況になったら、一緒に残ることになる。(あおぞら苑)</li> <li>台風の際に、「1 人で家にいると不安だから迎えに来てほしい」と何人かの利用者から言われて、迎えにいった。車が動く様な状況なら、利用者宅まで迎えに行く。独居でなくても、日中は家族が働いている人が多いので、あおぞら苑で預かってもらえると安心というもある。(あおぞら苑)</li> <li>今後、マンションを建てた際には、逃げ場所に指定することができるとよい。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やジュースであれば食べさせることができるが、配給がおにぎりしかない食べさせられない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>近くの小学校や中学校を避難場所としている人が多い。災害時にはすべての門を開放してくれるのかを気にしている。(乳幼児の保護者)</li> <li>水害の際には、マンションや市営住宅、区役所の上階に逃げるつもり。(乳幼児の保護者)</li> <li>小学校が避難場所になっているが、淀川が決壊した場合に使えるかどうか不安だ。(乳幼児の保護者)</li> <li>高いマンションは、オートロックになっているので入れるかが不安。外出している時に、近くのマンションに逃げることができると安心なのだが。(乳幼児の保護者)</li> </ul>
<p>■避難時の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者を一般の人に混ぜてはいけない。精神障害者は、知らない人が助けようとしてもできない。パニックを起こす可能性がある。精神障害者の避難は、障害者が利用している介護事業所などで責任を持って対応した方がよい。(げんきな郷)</li> <li>施設長という立場から、災害の際に利用者が一人でも残っていたらあおぞら苑から離れることはできない。しかし、それを職員には強要できないので、職員が家族のところに向かいたいといったら、家族の元に向かわせると人手が足りない。(あおぞら苑)</li> <li>高齢者を一人助けるためには、一人の大人の男性が必要。施設に来ている人は、全員助けるつもりだが、施設に来ていない人は祈ることしかできない。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段は車いすだが、緊急時には抱きかかえないといけない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>知的障害のある子どもは行きなれていない場所では、不安になる。普段行き慣れた場所を避難所にすることができるとよいのだが。(障がい児の保護者)</li> </ul>
<p>■避難訓練</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>佃地区は、阪神大震災の時、被害が大きかった。公園が隆起したり、陥没したり、マンションも 1.5 m 下がったところもある。避難場所である小学校に行っても、物資が何もなかった。役所は神戸の対応ばかりしていた。そういった経験から、佃地区は自分達でやらないといけないという意識が強い。佃地区では、毎年、避難訓練を行っている。20 町会から 400~500 人の参加者がある。(げんきな郷)</li> <li>地区で防災の講座を開催したら、中学生が 60~70 人来た。野球部員など体力があり、チームプレーができる中学生が来てくれた。講演で、「災害時には、中学生が高齢者の見守りをするのも大事」と言われていた。(げんきな郷)</li> </ul>	
<p>■災害時の備蓄</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>佃地区では、各世帯に防災カードを配布している。防災カードには、家族の名前などを書き込む欄がある。(げんきな郷)</li> <li>災害が起きたら、48 時間しのげるようにすることが大事だと聞いた。48 時間が経過すれば自衛隊が来る。あおぞら苑では、水を備蓄している。10 リットルのパックを 5 袋程度。また、お風呂のお湯もあるので、トイレに使うことができる。(あおぞら苑)</li> <li>病院は医療機関なので、病院には患者、病院スタッフの 3 日分相当の食料備蓄があるが、避難所として地域住民を受け入れる事は難しい。(西淀病院)</li> <li>災害時は外傷系の治療が多くなるので、必要なものは備蓄しておく必要があるだろう。また、電気や水がないと医療活動ができない。また治療等には多くの人手がかかるので、緊急時に人員がそこにたどり着けるかが問題だが、そこはまだ解決できていない部分。(西淀病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒険遊び場で、非常袋を用意しているお母さんは半数程度だった。非常袋に入れているものは、おむつ、おしりふき、水、飴、笛、1 日分のきがえ、ペット用のもの(乳幼児の保護者)</li> </ul>
<p>災害に関する情報 ■事前にほしい情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一昨年に障害のある人を対象につくった防災パンフレットは、もう少し詳しくつくることができたはずだった。利用者の視点が足りなかった。施設の職員さんが中心になってつくった。精神障害の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心できる避難場所の情報がほしい。水没しているかどうかを知りたい。(乳幼児の保護者)</li> <li>就学時の子ども緊急避難所がどこなのか分からない。(乳幼児の保護者)</li> </ul>

報	<p>人には役に立たない。イラストがもっとたくさんあって、ぱっと見てわかるようにするべきだった。 (げんきな郷)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に、佃地区のマンションを避難場所として解放するという事は、回覧板で伝えている。(げんきな郷)</li> </ul>	
■災害発生時情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が来る時には、情報が大事だと思う。防災無線は建物の中にいると聞こえないので、テレビかラジオから情報を把握すると思う。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼できる情報を、事実をはっきりと確実に知らせてほしい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・ラジオは一応家にあるが、ケータイメールなどでも災害情報が来て欲しい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・区役所などが、スピーカーがついた車で災害情報を伝えてくれるといい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・どこに、何を持って逃げるべきなのかを知りたい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・防災無線があることを知らなかった。家の中だと、車が多くて聞こえない。(乳幼児の保護者)</li> <li>・行政の車がアナウンスしながら街中をぐるぐると回って知らせてくれるといい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・自分の住んでいる周辺がどうなっているのかについて知りたい。阪神大震災の際に、被害が大きい所の情報はテレビやラジオで知る事ができたが、火事がどこで起きているのか、道路のどこが封鎖されているのかなどを知りたかった。(乳幼児の保護者)</li> </ul>
コミュニティについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域とのつながり <ul style="list-style-type: none"> <li>・あおぞら苑は、町内会と繋がりがあるが、防災については話しあっていない。(あおぞら苑)</li> <li>・近くにある西淀川中学校と一緒に避難訓練をしている。(姫島こども園)</li> </ul> </li> <li>●施設同士のつながり <ul style="list-style-type: none"> <li>・西淀病院は内科の第2次救急指定病院で、西淀川で他には千船病院がそれにあたる。大阪府には防災拠点病院が8つあり、直近は都島の病院がある。そうした大阪府下の病院との連携についても考えていかねばならない。まだ医療機関同士の連携についての話し合いはなされていないのではないかと。(西淀病院)</li> <li>・生き残った病院に搬送が立て込むので、医療機関が孤立した場合、その機能を維持するのは困難になるので、人的な連携など考えるべき。(西淀病院)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者同士のつながり <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児の保護者同士でつながりがあるとよいが、おもちゃ図書館は、普通の子育て支援サービスと違って、お友達同士で誘い合わせて参加するというのが難しい。住んでいる場所もばらばらである。災害時に情報をやりとりしたくても困難だろうと思う。(障がい児の保護者)</li> <li>・公園で、近所に住んでいる子どもが同じ年くらいのお母さんと仲良くなった。(乳幼児の保護者)</li> <li>・区役所で募集していた新米ママのつどいというサークルでママ友ができた。月に2回集まって、みんなで出かけたり遊んだりしている。(乳幼児の保護者)</li> <li>・に～よんステーションに来る様になって、知り合いが増えた。子どもを介したつながりがあると、非常時にも安心できる。(乳幼児の保護者)</li> </ul> </li> <li>●地域とのつながり <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもができるまでは、近所の人達とまったく付き合いがなかった。現在は、子どもを介して近所の人と話をするようになってきた。(障がい児の保護者)</li> <li>・町内会に入っているが、子ども関連のつながりはない。大和田小学校で運動会をするという連絡がきたが、行事などには参加したことがない。(乳幼児の保護者)</li> <li>・マンションに住んでいるので、町内会には入っていない。(乳幼児の保護者)</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市では、帰宅困難者を公共の建物で受け入れることができるようにすると聞いた。(げんきな郷)</li> <li>・民医連の友の会では入会している75才以上の人を対象に熱中症に関する状態把握の調査を行った。その際に友の会入会者のみではあるが、高齢者の居住地把握ができた。高齢者、障害者がどのような環境で暮らしているかを把握し、どういう支援ができるかについてまちぐるみで検討すべきだと思う。(西淀病院)</li> <li>・行政へのお願いとして、行政の防災に対する指針を出してほしい、今ある備蓄を屋上へ上げ、浸水時に備えて欲しい。(西淀病院)</li> </ul>	



# バリアフリーに対する西淀川区民の声



	施設の職員	乳幼児の保護者
移動手段、困っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の中には、手押し車を押して買い物に行きたくない人もいる。手押し車を押している姿を近所の人に見られたくないという意識がある。(げんきな郷)</li> <li>・一人で自由に移動できる人は、あおぞら苑を利用していない。普段は、手押し車などを使って歩いて移動している人がほとんどである。歩ける人であっても、200mを歩くのに30~40分かかる。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族で出かける時は、車が多い。車いすを積んでいく。学童保育に迎えに行く時は自転車で行く。自転車の前かごに長女を乗せて、小三の男の子は横を走ってもらっている。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・主に子どもを自転車に乗せて移動する。(乳幼児の保護者)</li> <li>・淀川に向かう橋は、歩道が狭く、向かいから高校生が2人横並びで自転車に乗って来られるとすれちがうことができない。(乳幼児の保護者)</li> <li>・自転車の歩道走行の禁止が厳しくなるとテレビで見たが、子どもを乗せながら車道を走るのは怖い。どの程度取り締まられるのか不安だ。(乳幼児の保護者)</li> </ul>
普段よく行く場所、困っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい小売店が減り、買い物難民になっている高齢者が多い。大きなスーパーまで歩くことができない。(げんきな郷)</li> <li>・車で路上販売を行う人が増えた。野菜や仏花など。(げんきな郷)</li> <li>・あおぞら苑に来ていない時は、ホームヘルパーに来てもらったり、外注で宅配サービスを利用したりで、独居でも近くに住んでいる子ども達が助けてくれたりなどで対応しているようだ。一人で外出することはほとんどない。(あおぞら苑)</li> <li>・お店をバリアフリーにするよりも、店員の人に対応してくれればよい。たとえば、入り口に段差があっても、車いすを一台置いておけば移乗させてお店を利用してもらえばよい。パチンコ店に車いすで来る人もいる。車いすの人が来た債には、店員がイスを外すなどの対応をしている。(あおぞら苑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●飲食店 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関西スーパーのフードコートは使いやすい。お父さんが小六の娘さんを抱っこして連れて行く。ガストは1階だけの店舗なので使いやすい。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・かごの屋歌島橋店は、エレベータはあるが、入り口で靴を脱がないといけないため、車いすでは入店できないと思っていた。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・2階に店舗がありエレベータがない店舗は、お父さんが小六の娘さんを抱きかかえて連れていく。お父さんが一緒じゃないと行く事ができない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・ロッテリアや回転寿司(スシロー)によく行く。(乳幼児の保護者)</li> <li>・和食 さと。座敷があるため、乳幼児連れでも安心。2階に店舗があるが、エレベータがないため、子どもを抱きかかえて階段を上らないといけない。エレベータがあれば、ベビーカーのままお店に入ることができるのだが。(乳幼児の保護者)</li> </ul> </li> <li>●小売店 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュにしよどは安いですが、通路が狭く子どもと一緒に歩くことはできない。ベビーカーの人もほとんど見ない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・杭瀬にある、コーナン、ジョーシン、スーパーマルハチは、同じ敷地内にあり、いずれの店舗も使いやすい。1階だけの店舗で、広く、車いすもガタガタしない。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・フレッシュ(スーパー)は、狭くて使いにくいですが、昼過ぎなど空いている時間に行く。(乳幼児の保護者)</li> <li>・スーパーの通路は狭い(ベビーカーで行けない)。元気市場など、安売り店は通路に商品がたくさん置いてあり特に狭い。(乳幼児の保護者)</li> <li>・スーパーナショナル 野里店は通路が広い。(乳幼児の保護者)</li> </ul> </li> </ul>
バリアフリー情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店などのバリアフリーに関する情報をあらかじめ知っていると、安心して使えると思う。(重度障がい児の保護者)</li> <li>・トイレの広さ(子どもと一緒に入れるかなど)、オムツ換えシートがあるかどうか、禁煙についての情報がほしい。(乳幼児の保護者)</li> <li>・インターネットはあまり利用しない。に~よんステーションや区役所などに冊子が置いてあったら、持って行くと思う。(乳幼児の保護者)</li> </ul>

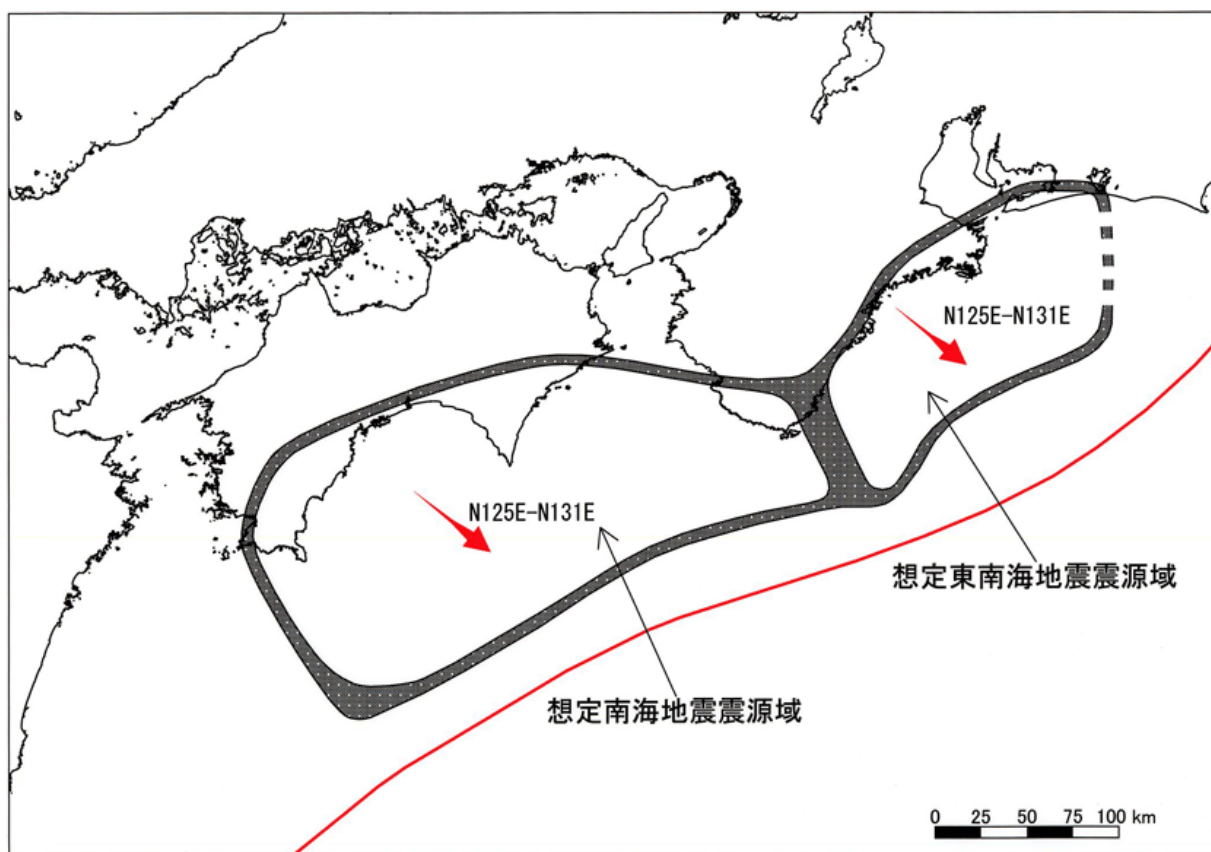
# 参考資料：災害避難について

## ① 東海地震、東南海地震、南海地震について

- ・ 今後 30 年以内に、東海地震、東南海地震、南海地震の発生確率が高いと予測されています。
- ・ 相当期間この東海地震が発生しなかった場合には、想定東海地震と東南海地震・南海地震との同時発生の可能性も生じてくると考えられています。

表 地震の発生予測

地震	マグニチュード		地震発生確率 (30 年以内)	平均発生間隔	最新発生時期
南海地震	8.4 前後	同時	60%程度	114.0 年	1946 年南海地震
東南海地震	8.1 前後	8.5 前後	70%程度	111.6 年	1944 年東南海地震
想定東海地震	8 程度		87% (参考値)	100~150 年	1854 年安政東海地震



出典：地震調査研究推進本部事務局（文部科学省研究開発局地震・防災研究課：<http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kinki/kinki.htm>）

## ② 災害と時間の経過

被災者たちの体験は、時間の経過に応じてさまざまに変化していきます。

応急対応期	フェーズ0（失見当期）	災害発生～10時間
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害の規模が大きくなると、被災地のだれもが、何が起きたかわからない、どうしたらいいのかわからないという失見当の状態になる。</li> <li>・ 被災者は自分の力だけで生き延びなくてはならない。</li> <li>・ 組織的な災害対応ができない。</li> </ul>	
	フェーズ1（被災地社会の成立期）	10時間～100時間
復興期 復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災者の命を救う活動が中心。</li> <li>・ 災害情報が入手可能になる。</li> <li>・ 組織的な災害対応活動がはじまる。</li> <li>・ 被災者が災害という状況に適応し始める</li> </ul>	
	フェーズ2（災害ユートピア期）	100時間～1000時間
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地に善意が満ち、助け合いの精神が顕著になる。</li> <li>・ 社会機能の回復とともに、生活の支障が徐々に改善されていく。</li> <li>・ 社会機能が回復すると、応急対応機は終了する。</li> </ul>	
	フェーズ3（復旧・復興期）	1000時間～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人生と生活を再建する。</li> <li>・ 破壊された街の回復、経済の立て直しがはじまる。</li> </ul>	

参考：林春男著「いのちを守る地震防災学」、岩波書店、2003年

## ③ 災害時のいのちを守る活動

安否確認の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時には、家族の安否確認が困難になる。</li> <li>・ 安否確認が困難な事態は、集合パニックが起こりやすい。</li> </ul>
救命救助活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 装備のあまり必要ない、人手があればできるライトレスキュー</li> <li>・ 専門の装備や訓練をつんだプロが必要なヘビーレスキュー</li> </ul>
二次災害の防止活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震発生後の火災の防止。</li> <li>・ 地震発生後の津波、余震への対応。</li> </ul>

「集合パニック」

- ・ 多くの人が自分のおかれている状況に対して脅威を感じ、同じような行動を一斉に、しかも自分のことだけを考えてとりはじめる。集合パニックの特徴は、人々が自分の行動を最善のものだと信じ切っていること。
- ・ 「信頼すべき情報源から虚偽の情報が流される場合、せまいところを多くの人が通過しようとする場合、用意された資源に多くの人が殺到する場合に起こりやすい。

参考：林春男著「いのちを守る地震防災学」、岩波書店、2003年

## ④ 救命救助活動

### ● ライトレスキューとヘビーレスキュー

#### ○ ライトレスキュー

装備のあまり必要ない、人手があればできる救助活動

阪神大震災、東日本大震災では、被災した住民どうしでおこなわれたライトレスキューが多く、プロによる救助件数は少なかった。

#### ○ ヘビーレスキュー

専門の装備や訓練をつんだプロが必要な救助活動

### ● 人命救助の限界は 72 時間

- ・ 生存期待ができるのは災害発生から最初の 3 日間が限度。
- ・ 時間の経過とともに、救助にあたる消防・警察・自衛隊の人数は増えるが、救助対象者を見つけるのは難しくなる。

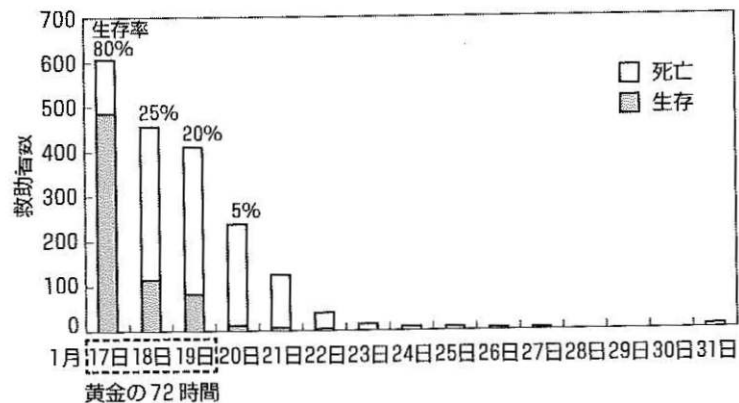


図 10 神戸市消防局の災害救助活動。

1月17日から19日の3日間が、この震災での「黄金の72時間」にあたる。

出典) 神戸市消防局(<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/48/quake/taio.html>)

参考：林春男著「いのちを守る地震防災学」、岩波書店、2003年

## ⑤ 災害時の行動

### ●正常性バイアス

- ・ 災害時に避難勧告や避難指示などが発令されても、避難する人々の割合が 50%を超えることはほとんどない。
- ・ ある範囲までの異常は、異常だと感じずに、正常の範囲内のものとして処理するようになっている。このような心のメカニズムを“正常性バイアス”という。
- ・ 正常性バイアスは、日常時にはエネルギーのロスと過度な緊張におちいる危険を防いでいるが、身に迫る危険を危険としてとらえることをさまたげて、それを回避するタイミングを奪ってしまうことがある。

### ●避難行動に影響する要因

家族	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 災害に直面した時には、家族は一体となって行動しようとする。</li><li>・ 幼い子どもがいる家族では避難行動は早めに始まる傾向があり、老人や病院のいる家族では避難行動が遅れる傾向がある。</li></ul>
愛他的な行動	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 危機に際して自身の危機回避を最優先せず、他者を救済しようという行動。</li><li>・ 愛他的な行動により避難が遅れることがある。</li></ul>
夜間の災害	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 夜間に起こった災害は昼間に起こった災害よりも被害が拡大する。</li><li>・ 災害を体感で確認することが難しくなること、マスメディアやパーソナルネットワークを通じた情報を得るのが難しくなることから、災害発生を迅速に知ることが難しくなる。</li><li>・ 消防や警察などの防災組織も夜間には機能が低下し、暗さや寒さなどの悪条件が加わることが避難行動を遅らせる。</li></ul>
模倣性	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分達の判断で行動を決しかねる場合には、他人の行動が災害についての状況判断や避難行動に踏み出すか否かを決める際の鍵になることが多い。</li></ul>
災害経験	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 被災経験は、同じような災害に出逢った場合には、ある程度の自信を持って切り抜けることができるが、他の災害には役に立たない。</li><li>・ 過去に避難指示に従って避難をしたが、実際の被害はその必要がないほど軽微であった場合などは、次の災害に遭遇した時に、避難行動を遅らせたり阻害したりする要因となる。</li></ul>

参考：広瀬弘忠著「人はなぜ逃げおくれるのか ー災害の心理学」、集英社、2004年

## ⑥ 災害時の情報

### ●行政からの災害情報

- ・ 避難勧告は、テレビ、ラジオ、防災スピーカー、広報車等を通じて伝達される。
- ・ 津波予報は、地震発生後 3～5 分程度で発表される。

### ●行政からの情報への依存

- ・ 役場などの行政機関の人々も、地域住民と同様、実際に災害を経験している訳ではないので、災害時のすべての対応を円滑に行うことは不可能であるといえる
- ・ 自然災害は発生の不確実性が非常に高いため、災害発生危険時にいつまでも行政からの情報を待つといった消極的な姿勢では、避難が間に合わない場合も考えられる。
- ・ そのため、すべてを行政に委ねても不可能であること、また土砂災害は予知の難しい災害なので、適切なタイミングで避難勧告が発令されることも難しいことを認識することが重要である。

### ●住民を災害情報の受信者から（共同）発信者へ

#### 事例：土砂災害危険時の自主避難ルール

- ・ 大雨などの土砂災害発生危険時には、地区の全住民がセンサーとなって地域内の状況に目を配り、予兆現象を発見した際にはすぐに区長に報告、区長は地区住民から 3 つ以上の情報が報告された時点で速やかに全住民に対してその旨を報告する。そして住民はその報告をもとに隣近所に声をかけ合って避難する、という仕組みを作った。
- ・ ここで、3 つ以上の報告を受けたらその内容にかかわらず全住民にその状況を報告ことにしたのは、避難情報の発信基準に個人（区長）の判断を介してしまうと、正常化の偏見などにより、的確なタイミングで情報を発信することができない可能性があるため、できるだけ機械的な判断基準を設けた。

参考：金井昌信,片田敏孝,望月準「土砂災害教育のあり方とその効果・波及に関する研究」, 土木計画学研究・論文集, Vol.23, no2, pp335-344, 2006

MEMO

Lined area for writing a memo.



〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4F (web)http://aозora.or.jp/ (Tel) 06-6475-8885 (Fax) 06-6478-5885 e-mail:webmaster@aозora.or.jp

今年度の西淀川交通まちづくりプロジェクトは、大阪ガスグループ福祉財団の研究・調査助成を受け、あおぞら財団が事務局となって実施しています。

取り組み内容はこちら：<http://aозora.or.jp/archives/category/chiiki/kotumachi>

# 西淀川区の防災対策

西淀川区区政会議資料より

2011年11月26日(土)  
西淀川交通まちづくりプロジェクト

## 西淀川区で想定される水害

- 西淀川区は、淀川、神崎川、左門殿川、中島川といった**たくさん**の河川と海に囲まれている。
- 平坦な低地で自然排水が困難なため、**大雨、津波による水害に対して非常に弱い**
- 東南海・南海地震
  - 今後30年以内に発生する確率
    - **東南海地震が70%、南海地震が60%**
  - 大阪市においては震度5強(一部6弱)の揺れとともに2~3m程度の津波が地震発生後約2時間で来襲すると予測されています。

## 内水氾濫した場合(平成18年防災マップより)

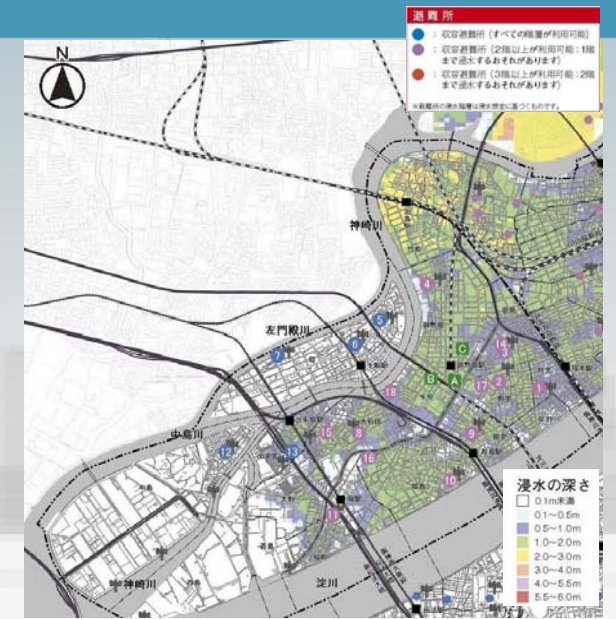
- 降った雨が下水道などから排水することができず、その場にたまり浸水することによって発生する氾濫です。
- 内水とは、ポンプによる排水がなければ、降雨を河川へ排水できない地域の雨水のことです。

東海豪雨級の降雨を想定した場合を想定

※東海豪雨:平成12年9月に、東海地方で観測された過去100年間で最大級の豪雨。総雨量567mm、時間最大雨量93mm

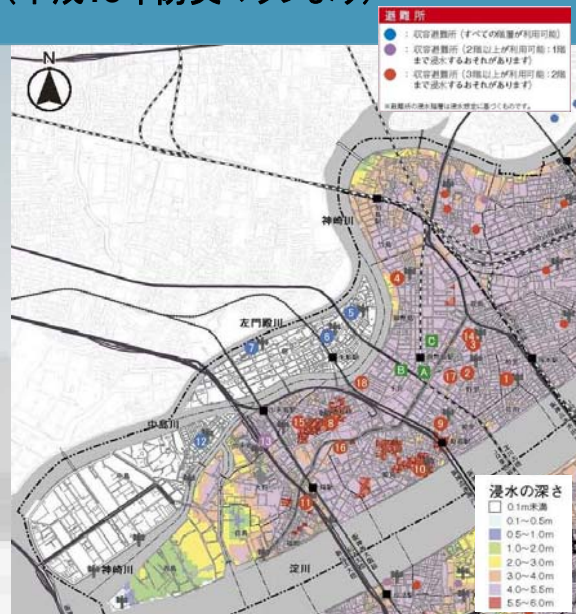


## 神崎川が氾濫した場合(平成18年防災マップより)





## 淀川が氾濫した場合(平成18年防災マップより)



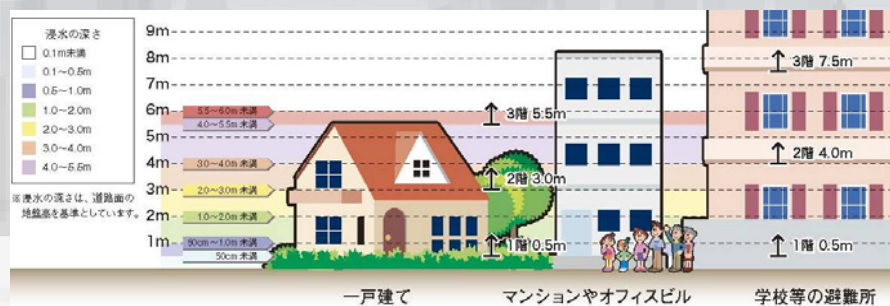
## 津波被害

- 東海、東南海、南海の3連動の過去最大の地震が起きたとき
  - 太平洋岸で東日本大震災と同じように10mをはるかに超える津波が発生
  - 大阪湾に来る津波は約2m、到達時間は地震発生後の2時間
- 太平洋岸で10mの津波が、紀伊水道を通り、淡路島と大阪側の狭いところから入ってきて、大阪湾の中でさらに広がって行って、津波が小さくなって行って、最後に淀川の河口付近で2mまで下がる。
- 潮位が2mであっても、津波はスピードがあり乗り上げてくるため、倍くらいの高さがある。西淀川では、津波高2mかける2倍の4m、それに満潮位が重なった場合を考えて5m。
- 海拔5m以上に念のため逃げて欲しい。
- 危険を察知し、地域で救出、消火活動をやって避難完了まで1時間で行う。

(平成23年度西淀川区区政会議防災部会 宮本地域安全学会顧問の発言)

## 浸水深さの目安

- 浸水の深さが、50センチを超えると、大人のひざあたりまで、浸水します。
- このような状態では歩くことも困難であり、高齢者や子どもには大変危険です。
- 浸水が発生する前に、避難をする必要があります。

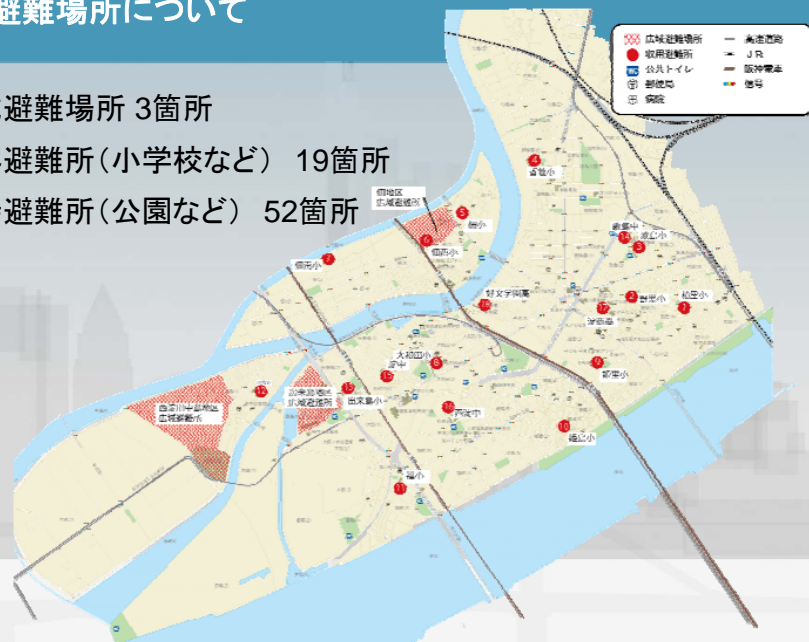


## 収容避難場所について

- 小学校などを収容避難所として指定。
- これまで避難所開設運営訓練を3連合で実施。
- 各避難所では学校の校庭や教室の用途に応じて、対策本部・救護所・要援護者(高齢者・障害者など避難場所)
  - 炊き出し・資機材整理場所などを確認。
- 課題
  - 小学校体育館を収容場所に予定しているが、津波による災害の場合体育館(1階)が機能するかどうか。
  - 3階以上で収容できるスペースは限られている。

## 収容避難場所について

- 広域避難場所 3箇所
- 収容避難所(小学校など) 19箇所
- 一時避難所(公園など) 52箇所



## 津波避難ビルの指定にかかる西淀川区内の現状

- 大阪市では、津波が発生した時に、**一時的に避難できるビルの選定作業**を行っている。
- 学校・市営住宅については既に指定済み。
- 今後、津波避難ビルリストを参考にしながら、各ビルの所有者・管理人等に津波避難ビルとして協力してもらえるのかどうかの意思確認。
- 協力が得られるビルについては、地域振興会(及び区役所)が戸別訪問。
- 「津波発生時における緊急一時避難所としての使用に関する協定書」を締結。
- 課題
  - 民間ビルの協力が、どこまで得られるのか不確定。
  - 夜間など**管理人不在時の対応、オートロックの解除**など。
  - 誰が、どこのビルへ避難すべきか。地域ごとに避難先ビルを指定することが可能か

## 津波避難ビル要件【基本方針】

- ① 耐震性
  - 新耐震設計基準(昭和56年施行)に適合していることを基準とする。
- ② 津波に対する構造安心性
  - 原則としてRCまたはSRC構造とする。
- 避難者が一番多いとされる昼間での想定避難者数が7万人となっている。
- そのうち市営住宅や学校に収容避難可能である約2万3千人を差引いた、約4万7千人の避難場所の確保が今後民間のマンションや企業で必要とされています。

## 津波避難ビルの収容可能人数

連合名	避難者	学校+市営住宅	学校+市営住宅に避難できる人の割合	協定可能ビル(民間)	
				棟数	収容可能人員
柏里	5,137	1,364	26.6%	73	8,070
野里	5,695	2,379	41.8%	67	16,248
歌島	4,712	2,042	43.3%	43	7,917
香簗	9,035	2,363	26.2%	55	29,952
竹島	1,008	0	0.0%	10	3,064
佃	11,357	4,931	43.4%	61	29,049
大和田	5,564	3,565	64.1%	50	12,147
千舟	2,673	0	0.0%	36	15,372
姫里	5,024	1,344	26.8%	60	12,579
姫島	8,555	2,390	27.9%	74	15,018
福	2,645	1,016	38.4%	12	5,584
大野百島	1,295	0	0.0%	17	5,193
川北	3,095	904	29.2%	16	39,075
出来島	4,206	579	13.8%	25	7,860
合計	70,000	22,877	32.7%	599	207,126

## 福祉避難所

- 高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・病弱者等で入院の必要や施設に入所するほどではないが、収容避難所では生活に支障を来たす人たちのために、何らかの特別な配慮がされている避難所。
  - 福祉避難所としては、「収容避難所の一区画」「高齢者施設」「その他社会福祉施設」を指定することとなっている。
  - 「高齢者施設」については、「大阪市老人福祉施設連盟」との覚書を大阪府が締結。
  - 今後、「大阪市老人福祉施設連盟」に加盟している区内の高齢者施設と調整を行い、**協力が得られた施設については「協定書」の締結を行う。**
- 課題
- 要援護者を支援する体制の確保(福祉避難室・福祉避難施設)
  - 要援護者を支援するための設備・資機材の確保
  - 福祉避難施設のキャパシティ

## 福祉避難所の候補施設

### ■ 大阪市老人福祉施設連盟加盟施設

施設名	住所
西淀川特別養護老人ホーム	大和田2-5-11
ルーチェ千舟	千舟2-7-2
西淀川区社会福祉協議会	千舟2-7-7

## 西淀川区の防災の取り組み

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
■災害図上訓練	1 区役所で実施 (全体DIG) 14連合 (連合DIG) 5連合		5連合	4連合				・3年計画で全連合実施(初級・中級・応用)
	2 まち歩き		5連合	5連合	4連合			・地域を歩きながら危険箇所などをチェック
	3 避難所開設				14連合			参加者約350名
■フォーラム				区民対象				・阪神淡路大震災—その体験を語る— ・練馬区の区民防災組織活動
					区民・事業者対象			・地域の企業と住民の協働による防災 ・企業連携による防災のまちづくり
■講演会					事業者対象			・企業の地域貢献とBCPの進め方
					事業者対象			・事業継続計画(BCP)策定について
■セミナー						事業者対象		・実践的防災対策とBCPの作成について
							区民対象	・外国籍住民等への防災意識向上
■研修会					14連合	14連合		・全連合を対象に年4回実施
■防災訓練						6連合		・総合防災訓練実施
						3連合	2連合	・避難所開設訓練
■防災マップ作成					1連合	3連合	2連合	・連合版防災マップ